

# 「マスターズ水泳」 日本記録樹立で 赤ワインで「美酒」に 酔いたい!

歌手 錦野 旦



いと健康志向が勝るので、若さを保って  
くれる効果のあるポリフェノールが多い赤  
ワインを選びます。

とはいえ、昔から赤ワイン一辺倒という  
ことではありません。日本酒に嵌まった  
こともありました。

かつて日本酒に詳しいマネージャーがいま  
してね。彼のお勧めは「菊姫」(石川県・菊姫  
合資会社)の大吟醸で、その味は極上だと  
言いました。当初はこの酒かも知らなかつ  
たのですが、仕事で訪れた小松空港のため  
たま寄ったうどん屋さんでこの酒を見つけ  
たんです。お値段も「極上」で高価でした  
が、フルーティで深みのあるその味にすぐ  
魅了されました。それ以来、ボクの中で  
高価な日本酒は美味しいという基準がで  
ています。

日本酒が好きだとステージで話すと、ある  
とき、ファンの一人が日本酒をプレゼントして

くれたんです。丁寧に梱包された高価そう

な酒でした。その名は「錦乃馨」(山口県・八百  
新酒造)。しかも(35年貯蔵「Vintage」と  
記されたその古酒は、なんとボクのデビュー  
年の醸造。すぐにボクの酒だと運命的なも  
のを感じました。ちょうど芸能生活の節目  
の年でもあり、ファンの方々へのプレゼント  
としてこの酒がピッタリだと思いましたが、  
それにはあまりにも高価すぎました……。

ところで、ボクは大分生まれの九州男児  
です。だから焼酎好きだと思われることも  
多いです。もちろん、焼酎に嵌まったことも  
ありました。

30年ほど前のこと。鹿児島に「幻の焼酎」  
があることを、旅番組を見ていて知りまし  
た。それが「伊佐美」です。番組では出演者  
が伊佐美を求めて旅をするのですが、蔵元  
には在庫がなく、たまたま出会った地元住  
民が大切に飲んでいた伊佐美を一杯だけ飲

ませてもらっていたのです。そのなんとも

美味そうなこと。ボクも何とかして飲みた  
いと思い、ようやく辿り着いて飲んでみる  
と……。その口当たりの良さに驚きました。  
さらにその後、「森伊蔵」「魔王」「村田」の  
3Mが話題になり、その味も堪能しまし  
た。いずれも高価で、高い焼酎はロック、そ  
れ以外を飲むときは健康面を優先して水  
割りで飲むようになりました。あつ、水割り  
で飲むときは、故郷の大分県特産の「カボ  
ス」を絞り入れるとても美味しいですよ。

東京に上京後、デビューしてからはほとん  
ど洋酒でした。味が好きだからって? いえ  
いえ、若かったし、恥ずかしながら芸能人  
ということで気取っていたからです。それに  
他人よりも酒が強く、二日酔いも経験した  
ことがなかつたので余計、ええかつこしいに  
なっていたと思います。酒の味もわかつてい

好きなお酒は何かと聞かれたら、今は赤  
ワインと答えます。ステージに上がり続け  
るためには健康管理と、太つてはいけないとい  
う意識が強いので、どうしても体重が増  
えるという印象が強いビールや日本酒は敬  
遠してしまふのです。

歌手という職業は、他人に見られる仕事  
でもあります。美肌効果があるといわれる  
日本酒は魅力的ではありますが、どちらと



ンです。そして銀座のクラブではブランデーがお決まりで、当時流行っていた「ヘネシー」や「レミーマルタン」を空けていました。

そうそう、こんなことがありました。昭和46年に沖縄へ行ったときのこと。返還の前年でしたので、まだ米国の統治下にありましたが、那覇の繁華街にあるクラブでいつものように気取って「レミーマルタンを」と頼むと、その娘が厨房に尋ねた後、「すみません、それできません」と言うのです。どうやら、米国だからフランスのブランデーを知らず、料理名と勘違いしたようでした。

1回だけボク自身も酒での失敗エピソードがあります。

数年前のとんねるずの番組でのことでした。木梨憲武君の誕生日を祝うという企画で、ロケ後半はバースデーパーティの酒宴でした。1軒目は新宿のニューハーフの店。そこで早くもドンペリ祭の始まりです。オネエたちも囃し立て、調子に乗ったボクは、昔を思い出してアイスボックスで回し飲みを始めてしまいました。昔はよくやっただけです。(勝新・故・勝新太郎)さんなどと飲むときは特に豪快で、アイスボックスに並々とブランデーを注いでみんなで回し飲み。それをその席でやっちゃった。その後、六本木に移動してさらに浴びるように痛飲。酔わないはずはありません。

案の定、帰りのタクシーでは窓から顔を出し、何度も嘔吐する始末。記憶がないのですが、女房に聞くと、言うようにして帰宅

するや、「(酒は)もう止めた、もう止めた」と自責の念に駆られていたといいます。さらに翌日、するはずのない二日酔いを始めて経験、一日中ダウン。その翌日も頭痛に襲われついに三日酔い。もう無茶な飲み方は絶対しないと誓った夜でもありました。

ところで、冒頭、お話ししたように今飲むのは、健康を意識して赤ワインが多いですね。特にイタリアの「サシカイア」が好きで集めています。でも80年代のものなどはとても高価でなかなか入手できません。地元なら安いだろうと、仕事でイタリアに行ったときに買おうと思っていたのですが、現地でも80年代のものは希少で、高価である以上に立ち寄った店では、「店の看板だから」と譲る意思もありませんでした。

飲んだときのまろやかさが口に広がるといふ点が、ボクが思うワインのおいしさです。加えて、体にいいということ。普段飲みのテールワインとしては手ごろなチリワインを選びますが、大量には飲みません。家で飲むときは1本を1週間かけてじっくり飲んでいきます。

また、若い人たちが酒を飲みながら食事することも楽しみの一つです。目下、マスターズ水泳に挑戦している、「The Start(サ・スター)」というチームを結成、8人の若いイン

ストラクターと日本記録を目指して日々泳いでいます。その若いインストラクターたちと飲むことが、ボクが若くいられる秘訣であり、ファンにも若い人の輪に飛び込んで欲しいといつもステージで伝えています。

マスターズ水泳への挑戦は、女房から3年前に背中を押されたからで、もともと水泳には自信があり、同年代には負けられないという自信がありました。でも最初のレースで惨敗し、それからは練習漬けの日々、今では日本記録を樹立したいと思うまでになりました。

これだけ熱くなれるのも若いインストラクターたちの影響で、時間があれば彼らと食事して、刺激を受けています。でも彼らは若いだけあってよく食べる。焼き肉屋に行くことが多いんだけど、支払いがいつも気になりますよ(笑)。

冗談はともかく、いまはとにかくマスターズ水泳で日本記録を樹立し、一刻も早く、若いインストラクターたちと祝杯を挙げ、美酒に酔いたいですね。

なかつたと思います。とにかく雰囲気重視で飲んでいましたね。

飲む場所によって定番の酒が決まっています。寿司屋や料亭など和食の店なら日本酒、洋食ではワイン、カウンターバーではバーボ

「プロフィール」にときのあきら…1948年大分県生まれ。1970年、「もう恋なのか」でデビュー。甘いルックスとクールな姿で「躍トップアイドルに駆け上がり、3曲目にリリースされた『空に太陽がある限り』が大ヒット。90年代に入るとバラエティ番組へ出演。マジメさとのギャップで注目を集め、チャリティマラソンにも挑戦する。そして常に何かにチャレンジを続ける。スターは「マスターズ水泳」で日本記録樹立を目指し泳ぎ続けている。

